



2022年10月  
第78号

☎ 111-0052  
東京都台東区柳橋2-22-3  
ウエスレアン・ホーリネス  
神学院  
☎ 03-3851-3762  
FAX 03-3851-3858  
振替口座番号  
00130-4-364534  
名義 ウエスレアン・ホーリネス神学院  
発行人 山崎 忍  
編集人 文カンホ、後藤貴子  
印刷所 ヨベル

無きに均しい等しい者を

用いられた主

神学院理事長 岡 撰也



ウエスレアン・ホーリネス神学院のために、尊い祈りとお支えをありがとうございます。

この度、主の導きによって、取るに足りない者が神学院の理事長に選任されました。これまでと変わらぬ皆様のお祈りとご協力をよろしくお願いいたします。私が、献身に導かれたのは、就職が内定した大学4年の時でした。K G K（キリスト者学生会）の夏期学校で、エレミヤ1章7-8の御言葉が与えられました。

「しかし、主は言われた。『まだ若い』と言ってはならない。む

しろ、私があなただを遣わす相手が誰であろうと赴いて、命じることがすべて語れ。彼らを恐れてはならない。この私があなたと共にいて、救い出すからだ」

しかし、私はすぐに神に従うことができませんでした。自分の弱さや足りなさを考えると、牧師になることは考えるだけでも恐ろしいことでした。何とか献身から逃げようとしたが、逃げれば逃げるほど、何度も御言葉が迫ってくるのです。

例えば、朝のデボーションの時、「自分は、みんなの前に出ると緊張してしまうし、口べたなの

で牧師になることは出来ません」と祈っていると、モーセの召命がその日のデボーションの箇所でした。そこから神がモーセに語り掛けられた次の御言葉が与えられました。

「そこで主は彼に言われた。『誰が人に口を与えたのか。また、誰が口を利けなくし、耳を聞こえなくし、目を見えるようにし、見えないようにするのか。主なる私ではないか。』（出エジプト4・11）  
そのように御言葉が、私に語られていたという経験を何度もして、逃げる事ができなくなりました。そして、神の招きから半年後に、コリント一1章28節の御言葉が心に響いてきました。

「また、神は世の取るに足りない者や軽んじられている者を選ばれました。すなわち、力ある者

を無力な者にするため、無に等しい者を選ばれたのです。」

その時に、「こんな者ですが、すべてを神様にお献げします。」と祈りました。神は私を献身へと導いてくださり、神学校での学びが許されたのです。神は、私のような弱く足りない無きに等しい者をあえて選んでくださり、今も用いてくださっています。それは、ただただ、神から与えられた恵みです。

あの時から、42年経っても一度、神がこの御言葉を語りかけてくださいました。

今年の年會後です。前理事長の小寺隆先生が、年齢制限のため理事長を引退することになりました。そして、その時電話があり、「岡先生、次期の理事長になってほしい」ということでした。

ウエスレアン・ホーリネス神学院は1988年に創設されましたが、最初の理事長は、峯野龍弘先生、次は本間義信先生、その次に小寺隆先生が務めてくださいました。3人の先生方は、神学院を建て上げてこられた先生で、財

政においても、学生との関係においても、神学や聖潔においても、神学院に必要なことを知り尽くしておられる素晴らしい器です。

一方、私は山形で主に仕え、神学院の財政については、献金を献げることと、理事会や全体委員会で報告を受けるだけでした。また、神学生との交わりにおいても祈ってはいましたが、キャラバン隊や個人派遣で数日過ぎすだけで、直接的な交わりはほとんど無かったと言っても過言ではありません。また神学的にも知恵のない者です。

そんな、無いものだらけの私が、ウエスレアン・ホーリネス神学院理事長ということは、どう考えてもふさわしいとは考えられませんでした。

しかし、数ヶ月の祈りの中で、献身の時に与えられたのと同じコリント一1章28節の御言葉が迫ってきたのです。

大学時代に献身に導いてくださった神が、この御言葉を、「無きに等しい者」に、今度は理事長への献身として語りかけてください、再献身へと導いてください

ました。

その神の招きにお応えして、神学院院長や教職の先生方、事務局長や事務に携わっておられる方々、信徒会や後援会の兄弟姉妹の祈りと力添えをいただきながら、主にお任せしたいと願っています。

なお、神学院の学生の学びと生活が祝福され、新しい献身者が与えられ、すべての点で祝福されるようにお祈りとお支えをお願いします。

#### ◆神学院夏期派遣報告◆

#### 御言葉を取り継ぐ者として

4年 黒木真菜

この夏、福岡エルシオン教会、山形南部教会、上大岡キリスト教会、宮崎柳丸キリスト教会、都農教会にて礼拝説教を、浅草橋教会で祈禱会説教の御用をさせていただきますました。夏期派遣を通して与えられた学びと恵みについて、

分かち合わせていただきませす。

まず、祈り備えることの大切さです。最終学年というところもあり、5つの教会で礼拝説教をさせていただきました。毎週異なる教会で、異なる方々に対して説教をするために、その教会のために日々祈る必要を覚えました。恥ずかしながら、今までその祈りが足りなかったと反省しました。祈りが積まれた教会での説教は、自分のものではない力を感じました。祈ってきた方々のお顔を見ながら、確信を持って語ることができました。神の言葉である御言葉を語るには、聖霊様の力が不可欠です。そのために原稿の準備だけでなく、祈りを積むことの大切さを教えられました。

2つ目は、御言葉を深く味わうことの大切さです。今回は何度か同じ御言葉から説教をしました。同じ御言葉を繰り返し読み、神様がここから何を伝えたいのか思い巡らし、祈り、関連する御言葉を読む中で、自分が語るべきこと



黒木真菜神学生

を明確にされていきました。これは大変贅沢な時間でもありました。語る自分が深く神様と交わるこの時間を大切にすることで、神様と心を一つにされて語る事ができるのだと感じました。これからも御言葉と祈りを通しての神様との1対1の時間を何よりも大切にしようと思います。

全ての奉仕を終えて反省したことがあります。私は御言葉に飢え渴いて教会に來られる方々の

魂に寄り添って語っているか、という事です。ある時ふと、自分がまだ仕事をしていた時の姿、心身共に疲れ切つて、それでも神様の御声を求めてすがるように教会に来ていた自分が会堂の席に座っている姿が頭に浮かびました。そして、その時の自分に語れる説教準備と、説教をしているかと、問われました。もちろん、説教を用いてくださるのは神様であり、人間には弱さや限界があります。しかし、神の御言葉を取り継ぐ者として、神と人とにできる限りの誠実を尽くす使命がある、それは1人ひとりの魂に寄り添う説教をすることだと示されました。

このような学びと恵みをいただいたことを、神様と、神学院の先生方、そして派遣を受け入れてくださった教会の皆様深く感謝致します。どうぞ、卒業までの歩みのためにお祈りを願ひ致します。



## 夏期派遣での恵み

3年 松本麻椰

入学して初めて、夏期派遣として対面で各地の教会、延べ7教会を訪問し多くの恵みをいただきました。感染状況が悪くなる中でも信じて受け入れてくださった教会、また送り出して下さった神学院、すべての関係した方々を守ってくださった神様に感謝します。

学生全員での福岡エルシオン教会のオンライン派遣に続き、7月27日から黒木真菜神学生と山形南部教会に行きました。ホサナ（日曜学校）キャンプに参加し、自然の中の豊かな体験と聖書のお話を経て、イエス様を信じますと、おともだちが決心すると共に祈れたことが大きな恵みでした。礼拝では賛美チームに加えていただき、共に主を賛美する喜びを味わいました。

8月6日からは淀橋教会の Agape Family（日曜学校）



松本麻椰神学生

キャンプで駒ヶ根愛の家に派遣されました。自然の中の野外活動、集会、遊びなど何をしてもおともだちは喜びがあふれており、神が中心にいてくださる時間が素晴らしいことを感じました。キャンプ前に足を骨折していた1人の高校生が駒ヶ根に来るなり松葉杖を取って歩けるようになり、主の癒しの力が働かれたことを感じました。

10日から遠州キリスト教会を初めて訪問し、浜松市では聖隷グ

ループを中心としてクリスチャーの働きがよく用いられていることを知りました。土曜日にはオンラインで教会学校の特別集会が企画されましたが、当初参加者が2人だけかもしれないと聞いていたところ、先生方の呼びかけによって久しぶりのおともだちが与えられ生徒5名、大人4名が集まりました。賛美とメッセージをさせていただきましたが、賛美は教会高校生とともにでき感謝でした。礼拝メッセージの御用も守られました。三輪先生には近くの聖隷病院での平日ホスピス礼拝のご奉仕を見学させていただきました。地域に仕えることを学びました。また、先生の牧会経験などのお話を通して、どこまでもへりくだって仕えることがどういふことかを教えていただきました。遠州滞在中に浜松ウエスレアン教会にも連れて行ってもらい、佃先生と篤子先生に温かいもてなしと御言葉をいただいで送り出していただきました。

14日から玉川中央キリスト教会の子どもキャンプに参加し、温かい家族のような交わりの中で

熱心に見つめてくる子どもたちにメッセージをしました。この夏、各教会での神様の御業を見て、また、主にある兄弟姉妹の信仰の姿勢やお証に大いに励まされ帰ってきました。皆さんとの再会を祈るとともに、奉仕に送り出すために、今、主が備えて下さった勉強や奉仕に取り組む、新たな力が与えられました。

### 夏期派遣で得た恵み

2年 細井一広

この夏は、関東夏期聖会を含め、初めての宿泊を伴う奉仕を経験し、昨年とは違った恵みをいただくことができました。

各教会での最初の奉仕は、向島キリスト教会でした。増渕徹神学生と共に、土曜日の子ども伝道会、翌聖日の礼拝とCSにて奉仕いたしました。子ども伝道会に出席した子ども達や御家族が、続けてCSに来てくださったことは本当に感謝でした。

続いてオンラインにて、シャローム日田キリスト教会の礼拝

奉仕を、同様に増渕神学生と2人で担当いたしました。礼拝説教が守られたことに加え、慣れないオンラインの奉仕を、ほぼ何のトラブルもなく全うできたことは、まさに主の恵みでした。また、礼拝で使用した神学生の賛美動画の編集作業も、大変有益な経験となりました。

更に、キリスト塩釜ともしびチャペルでは、初めての宿泊を伴う教会奉仕となりました。礼拝説教、証や神学院紹介等の奉仕の他、被災地を含む現地の方々な所も見学させていただきました。また、先生だけでなく、信徒の方々ともお交わりをする中で、現地教会の様子を肌で感じる事ができ、大きな恵みを感じていただきました。

また、派遣教会であるひばりが丘北教会では、2回の礼拝説教と教会キャンプの奉仕に関わりました。学び始めて日の浅い者に、語る機会が与えられたことを改めて感謝いたします。キャンプでは、台風による荒天が懸念されましたが、ほとんど雨も降らず、予定どおりプログラムが実施できたこと



細井一広神学生

も、主の豊かな恵みでした。

この夏の奉仕で特に強く感じたことは、人々の痛みや苦しみに目を向けるということです。奉仕の中で聞いた様々なお証の中で、ある方のお証が心に響いてきました。その方が救われるまで、御自身の持つ身体上の問題について、どれだけ悩み苦しんできたかを知り、胸がえぐられるような思いがしました。また、仙台の被災地見学の際、廃校となった小学校に今も残る大津波の傷跡、震災前

の集落が草だらけの更地になっている様子などを見させていただきました。大地震と大津波が人々の命や生活、そして故郷を奪ってしまったことに、ただただ胸を痛めるばかりでした。

こうした人々の背後にある痛みや苦しみを常に心に留めながら、御言葉を語り、奉仕をする必要を思いました。「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい。」(ローマ12・15)を覚えつつ、さらに奉仕に励み、学びに取り組んでいきたいと思っております。

### 夏季派遣報告

1年 増渕 徹

夏季派遣での体験は私にとつて宝物となりました。お世話になりました先生方、信徒の皆様、関わった全ての方に心より感謝申し上げます。

福岡エルシオン教会、向島キリスト教会、シャローム日田キリスト教会、浅草橋教会、三島西キリスト教会、九十九里みぎわ教会、オンラインと対面合わせて6教



増測 徹神学生

会にお世話になりました。様々な体験の中で、障がい者の方との交わりを忘れることができません。私が出会った知的障がい者の兄弟は、一度開いた聖書の御言葉は書名はもちろんのこと、章数、節まで正確に覚えることができず。新聖歌も同様に曲名、曲番号も全て覚えていらつしやいます。なんと素晴らしい賜物でしょう。皆から愛され教会にとってもなくてはならない存在となりました。また、ある兄弟は、盲目

の空手家です。その盲目の空手の先生から稽古を受けさせていただきました。受け、突きから始まり、基本の技を教えて頂きましたが、先生との組み手稽古では、私の放つ張り手を先生はことごとく受け止められました。先生が盲目であることを疑いたくなるほどでしたが、周りの気配を感じる能力は他人よりも何十倍も研ぎ澄まされていることに驚きました。先生から生きる勇氣と励ましを頂きました。

障がいについて軽率に申し上げることはできませんが、この兄弟たちを通して、神の祝福は例外なく全ての人に注がれていることを感じずにはいられません。

次に、高齢者施設体験について記します。高齢のご婦人方とお話をしたり、洗濯物を干したりしましたが、中には会話もなりたない方もいらつしやいます。そこで働いている介護士の皆さんはどのようなことも受容して笑顔を絶やしません。

私は産まれてから母の世話になりました。授乳から下の世話ま

で母の献身によって今の私があります。しかし、そのような母に対して恩を返すことなく母は召されました。介護の仕事をするということとは、そのような母への恩を間接的に返すことになるのではないかと思いました。

派遣期間の中で大きな出来事は、初めて礼拝説教をさせて頂いたことです。聞き手の皆様は本心に優しく、講壇から語る私の言葉に頷いて下さり、メモを取ってください、会衆の皆様温かい眼差しの中に主イエスの愛を感じました。

イエス様の愛をもっと知りた、もっと伝えたいという思いが強められた派遣の恵みでした。

### ◆退修会報告◆

教務主任 本間尊広

毎年、夏期派遣伝道期間の締めくくりと後期の学びへの霊的備えとして、退修会が行われています。今年も、9月6日～8日、



杉原千畝記念館にて

駒ヶ根パノラマ愛の家を会場に、現地対面参加が学生4名・教師5名、オンライン参加が教師9名で行なわれました。

今年、『中田重治とホーリネス信仰の形成』という書物を4回の講義で学ぶことをメインに、その他「牧会夜話」の時間には、3名の教師から牧会の上さまさまな証しをうかがい、「きよめとは何か」という問いにどう答えるかの時間には、3名の教師のそれぞれのきよめに対する理解や体験

をうかがった後で、グループに分かれ、学生を中心に、きよめの経験とそれをどう自分の信仰の歩みに位置付け、どう語るかについて分かち合いました。

2日目は、駒ヶ根から車で2時間のところにある杉原千畝記念館（岐阜県八百津町）を見学しました。杉原千畝は、日本の外交官で、第2次世界大戦下、リトアニアの領事館に在任中、ナチスドイツの迫害を逃れてきたユダヤ人難民の窮状に接し、外務省の訓令に反して大量のビザを発給し救ったことで知られる人物です。館長さんから講義室で映像と共にレクチャーを受け、その後で展示を見学したので、展示内容もよく理解することができ、杉原千畝について感動をもって理解を深めることができました。

最終日、聖別会において、学院長のメッセージを通し、語られるみ言葉を自分への主の言葉だと受け止めて従っているか、との問いかけを受け、一同、主のみ声にへりくだって従います、と献身を新たにしました

◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支えを心から感謝します。

7月の関東夏期聖会から始まった夏期伝道期間も祝され、学生たちは、貴重な訓練の場が与えられ、それぞれが霊的に成長する日々を送ることができました。ここ2〜3年間はコロナの予防のためにオンライン中心の奉仕を行っていましたが、今年もオンラインを用いて遠隔地の教会の奉仕を行いました。さらに神学生一人一人が多くの教会を訪問し、豊かな交わりをいただき、直接いろいろなることを経験して学び、誠意を尽くして奉仕する機会が与えられました。多くの奉仕によって以前よりは疲れがあったと思いますが、祈りに支えられ、力が与えられて、みな生き生きと輝いた顔で主に感謝していました。奉仕の写真からは、喜びと感謝にあふれている姿が伝わってきます。さらに神学生たちが、それぞれ立っている場所、与えられている状況で、これからの召命に向かって歩

む中で、聖霊の助けと満たしが豊かに注がれるように、いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝する霊性が整えられるように、励まし、お祈りくださる様よろしく願います。

神学院使い第78号では、新しく理事長になられた岡 根也先生の巻頭言と、教務主任の本間尊広先生の退修会の報告、在校生による夏期伝道の恵みの報告、そして、献金者一覧を掲載いたしました。

現在、夏期伝道、退修会を経て後期の授業が始まっております。

4年生はいよいよ、卒論の一時提出を終え、仕上げに取り組みながら、教師試験へと備えてまいります。また11月に第一回神学院入試が控えています。一人でも多くの入学生が与えられるように、また在校生それぞれの霊性、健康が守られ、後期の学びが祝されますように、また指導する教師の健康、事務スタッフの健康が支えられますようにお祈りください。



7ページの「ウェスレアン・ホーリネス神学院献金者」の続きです。

2022年9月	<個人>	栗原千鶴	◎学生寮・寮負担金・献金
<b>維持献金</b>	飯塚弘道・由架子	西川陽子	(2022年4月~2022年9月)
<団体>	佐藤泰介・洋子	外ノ池禮子	<寮負担金>
向島キリスト教会	山田証一	203,000円	淀橋教会
東京若枝教会	25,000円	<b>特別献金</b>	浅草橋教会
玉川キリスト中央教会	<b>予約献金</b>	(指定・給食援助)	玉川キリスト中央教会
札幌新生教会	会津和俊・裕子	淀橋教会	420,000円
福岡エルシオン教会	井出力男・敬子	30,000円	
八潮キリスト教会	小林幹明	<b>ウェスレアン奨学基金</b>	
山形南部教会(夏期派遣感謝)	矢野香	船津和子	
淀橋教会	栗原政雪	淀橋教会	
浅草橋教会	横山佳代子	20,000円	
	307,749円	中川百合子	

皆様の尊い御献金を感謝申し上げます。



## ウェスレアン・ホーリネス神学院

### 入試要項

#### 受験資格

- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後2年以上の者
- 専心宣教牧会の業に仕える明確な召命感をもち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

#### 受験手続き

以下の書類を整え、本学院事務所に提出ください（郵送可）。なお神学院所定の用紙はホームページからも印刷できます。（①～⑤は学院所定）

①入学願書 ②履歴書 ③信仰歴 ④所属教会牧師の推薦状 ⑤召命に関する短文（400字×3枚程度） ⑥最終学校卒業証明書 ⑦同成績証明書 ⑧健康診断

#### 1. 入学試験日

第1回	2022年	11月	15日（火）	試験科目：聖書、英語、ホーリネス
第2回	2023年	2月	14日（火）	試験科目：聖書、英語、ホーリネス
第3回	2023年	3月	7日（火）	試験科目：聖書、英語、ホーリネス

#### 2. 願書提出締切

試験日の2週間前までに提出して下さい。

#### 3. 受験料2万円

願書と一緒に支払い下さい。

#### 4. 全寮制

本学院は全寮制です。特別の事由のある場合には、通学もできます。寮から本学院までの交通費は通学事由が適当と認められた場合には援助します。また授業のある日の昼食は後援会等が援助しています。

#### 5. 奨学金・給費・貸与

申請をして承認を受けた者は授業料、寮費、食費等についてそれぞれの必要に応じて給費あるいは貸与を受けることができます。

#### 6. 学費・寮費

入学金	50,000円	授業料	年額	230,000円	
寮費	月額	5,000円	食費	月額	15,000円

- 上記の外に研修費・教材費があります。
- ※寮費・食費はその時の事情で変動することがあります。

ウェスレアン・ホーリネス神学院

連絡先：〒111-0052 東京都台東区柳橋2-22-3 TEL03(3851)3762

ホームページ <https://whseminary.jimdo.com/>